



子供の原因不明の発熱、病気かな？と心配になることも多いと思います。以前なら「熱が出たら解熱剤を飲んで寝ておきなさい」というのが主流でしたが、最近は解熱剤なしで様子を見ることも増えてきました。実際、専門家によって発熱の定義も様々で、38℃を目安としたり、38.5℃や39℃(特に子供の場合)を目安にするという意見もあります。なぜこんなにばらつきがあるのかと言いますと、子供の体温は大人よりも高い傾向にあるため「熱がある=病気」とは必ずしも限らないからです。今回は子供の発熱についてご紹介します。

なぜ発熱するの？体の中では何が起きているの？

発熱は主に感染症、ケガ、炎症に対する反応として起こります。風邪やインフルエンザ、中耳炎、肺炎、尿路感染などが原因で体温が上昇することがあります。

一度感染が起こると、体内に入ってきたウイルスや細菌に対抗するために免疫系が動き出します。これらの免疫系は体温が低い状態よりも体温が38℃前後の状態のほうがよく働くと言われていています。そのため、最近では「熱を下げることは免疫系の働きを弱めてしまうので病気を長引かせてしまう」という考え方もあります。



しかしこれは、熱を下げてはいけない、という意味ではありません。発熱は本人にとっては不快なものです。**つらい時は十分に熱を下げて、そのぶん水分や食事をしっかり摂るようにしましょう。**もし体温が41℃を超えた場合は**人体にとって危険な状態ですので早急に病院を受診してください。**特に今の時期は熱中症を起こす危険もありますので、出来る限り子供を一人にせず、大人がきちんと見れる環境を作りましょう。体温が異常な状態が長時間続くと命の危険につながります。

子供の体温は大人よりも高い？

平熱は人によって異なりますが1日の中でも変動があり、一般的には午後に最も高くなります。特に子供の場合は免疫系が整っておらず体が常にウイルスや細菌と戦っているため体温が高くなる場合があります。

平熱は就学前くらいの年齢で最も高くなる傾向があり、2歳前後では平熱が37℃を超えていることも少なくありません。**子供のうちは体温の高さよりも他の症状(呼吸困難、食欲不振など)のほうが病気の重さを反映します**のでぐったりしている、ぐずっている、機嫌が悪いなど、普段とは違う見た目の症状がないかよく観察し、症状が熱だけで本人が元気そうなら過度の心配は不要ですが、まれに**微熱しか引き起こさない危険な病気(特に血液、内臓系の病気)**もありますので、熱が出たときは一度は病院で診てもらうことをお勧めします。

急性の発熱と反復性(繰り返す)発熱

病気の診断は発熱の持続が14日以下(急性)か、14日以上(慢性)か、また年齢によって判断が分かります。特に**生後3か月未満**では詳しい検査が必要ですので**38℃以上の熱が出たときは早急に受診しましょう。**

| | 原因として考えられるもの |
|--------|--|
| 急性の発熱 | ウイルス性：インフルエンザやノロウイルスなど 細菌性：中耳炎、副鼻腔炎など |
| 慢性の発熱 | 同上の理由で症状が長引いたり、連続して別の感染症にかかった場合など 血液・内臓系の疾患（ 肝炎、肺炎、心内膜炎、骨髄炎 など） |
| 反復性の発熱 | 感染症の繰り返しによるもの ※疲労熱（保育所等で遊び疲れた夕方ごろに発熱し、夜には治るなど） ※医学的に正式な病名ではありませんが、環境ストレスや疲労が原因と思われる発熱で大抵はすぐ治ります。 |

手元に解熱剤がない時は
首、わきの下、太もものつけ根を
冷やすようにしましょう。
小さいお子さんであれば衣服で
ゆるめるだけでも体温の低下が
期待できます。

今月の担当は薬剤師 本山です



全国の医療機関の処方箋を受け付けます。
何でもお気軽にご相談ください。

きりん薬局 原田店

球磨郡多良木町大字多良木2899
TEL：42-6900
FAX：42-6910

